

# 光治療にハイツアル

## 免疫細胞使い進行抑制

脳内の「ミクログリア」

という免疫細胞をターゲットにしてアルツハイマー病を治療する研究が相次いでいる。これまでは病気の原因となる物質とされる「アミロイドベータ」などを減らす研究が主流だったが、有効な結果が出ていなかった。札幌医科大学はミクログリアの機能を高め、症状の進行を抑えることにマウスの実験で成功。京都薬科大学は骨髄細胞からミクログリアを作り、マウスの記憶障害を改善させた。

治療薬の新たな標的となる物質を探す動きが広がる

### 成果でマウスなど、大札幌医科大学

中、多くの研究者はミクログリアに着目した。

この免疫細胞はアミロイドベータなどを排除し、神経細胞を守る物質を分泌する。一方で、過剰に働くと神経細胞を攻撃する。加齢と共に機能が下がればアミロイドベータがたまりやすくなる。

札幌医科大学の下浜俊教授らは、ミクログリアの機能を高める研究を進めている。アミロイドベータがたまりやすいマウスに「ガラントミン」という物質を2カ月間与えると、ミクログリアの働きが活性化し、アミロイドベータの沈着を抑制する計画だ。

えた。下浜教授は「他の薬と組み合わせればより多くのアミロイドベータを排除できる」と期待する。